

雪がた

— 豊科病院だより —

豊科病院広報誌

平成30年 9月26日 発行

発行者 豊科病院広報文化委員会

〒399-8205

長野県安曇野市豊科5777-1

TEL:0263-72-8400

URL <http://www.shironishi.or.jp/>

豊科病院の理念

自他を問わず人間を愛し、慈しむ心を礎に、病める人、障害を持つ人、悩める人に常に自分の家族に接するように優しく接し、最良の医療・福祉サービスを提供し、地域の人々の要求及び個別的な要求にも応え、地域で人々が快適に生活できるような支援を行う。

二人の「案内人」今年も来院

そして、平成28年度からは、当院の作業療法部と協同のプログラムを年5回実施し、昨年29年度には、ピアサポーターの方には、ピアサポーターの方に

精神科病院に入院されている方の中には、入院が長くなり退院することが不安・・・退院はしたいけど何から始めたら良いのかわからない・・・「本当は退院したいけど言い出せない・・・」といった思いの方々がいらつしやるのではないのでしょうか。

そこで当院では、平成23年6月より、松本圏域障害者総合相談支援センターさんに病棟に入っていたいただき、同センターさんと協同で、そのような思いを持たれている患者さんの退院支援を企画、実施しております。

地域生活へのいざない



ピアサポーターの方(左)と紅林コーディネーター

も来院していただき、退院についての学習や活動といったプログラムを行いました。

今年も昨年に引き続き、7月から同センターの退院支援コーディネーターの紅林奈美夫さんが来院。数回に渡り、入院患者さんを対象に、個別の面談を行ったり、退院までの流れや、地域生活の説

明をしていただきました。

9月3日には、ピアサポーターの方と紅林さんが一緒に来院され、紅林さんがファシリテーターとなり、ピアサポーターの方から、入院を経て地域生活へ至るまでの体験を語って



いただきました。また、その体験を聴講された、入院患者の皆さんからの質疑に答えていただきました。

入院患者さんからは、やはり病院の中にいた方が安心。退院して外で暮らすより、「この病院の方が良い。」と、おっしゃる方もいれば、「ピアサポーターさんの話を聞いて、退院する自信がついた。自分の経過と同じ方が、そうやって退院できたことがわかって良かった。」と、地域生活のイメージを深められた方もいらっしゃいます。



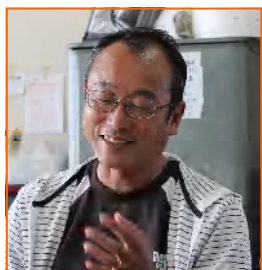
ピアサポーター（Peer）は仲間や同僚という意味。ある問題をかかえる当事者が同じ問題を抱える者を仲間の立場で支援し合うことを「ピアサポート」といいます。精神保健領域におけるピアサポーターは、精神障がい者が自らの体験に基づいて、仲間の障がい者を支援する活動を指し、支援する障がい者を「ピアサポーター」と呼んでいます。

た。患者の皆さんは、今回のお一人の来院を受けて、色々な思いを持たれたようです。

今後は、紅林さんが患者さんと個別に面談

され、それぞれのニーズに合わせて退院支援をしていただくことになっています。

この一連のプログラムは、入院患者さんに地域生活を徐々にイメージしていただく試みです。当院では入院患者さんの高齢化が否めませんが、上記のような「入院希望」を「メント」された患者さんであっても、このプログラムを通じて地域に関心を持たれ、一人でも多くの方が退院に結び付くことができれば良いと思います。



災害的な暑さの中で

涼をもとめて

精神科デイケアで釣り大会

8月8日、精神科デイケアでは、レジャー施設のランドマウンテンに外出しました。安曇野市穂高の山麓線沿いにあるこの施設は、

北アルプスを望み野鳥の鳴く声も聞こえる、安曇野市内でも高台に位置するところにあります。市内ではこの日も30℃を超える暑さでしたが、体力に自信のある若手を中



心としたメンバーが、岩魚や山女魚釣りを楽しめました。デイケアでは、夏の体調管理を重点的に行っており、メンバーを選んで行うこうした取り組みは、応用編としての側面もあります。当日は、服装や飲み物、体調を整えられたメンバーが参加されました。

釣りが好きな人は勿論の事、魚釣りが初めての人、アウトドアが好きな人、ストレス発散をしたかった人、皆さん思い思いの1日を過ごされました。中にはどうしたら効率的に魚が釣れるのかを検証した方もいらっしゃいました。

釣りが終わった後は、施設の方に魚のワタを出していただき、炭火で魚を焼きました。炭の向こう側に広がる森は美しく、青い空と入道雲

とのコントラストも、他の季節には味わえない景色でした。炭火で焼いた時間は約40分間。暑いー！暑いー！と言いながらも、あつという間に時間は過ぎ、香ばしく焼きあがった魚を平らげました。

昼食は併設されたカフェで食事を取りました。おしゃれな内装や素敵なお店員さん、ワンプレートの美味しい食事に皆さん満足されていました。

来年は体調を整えていきたいと、参加できなかったメンバーからも羨む声があがってきました。デイケアでは、生活の課題に着目した取り組みを今後も行っていきたいと思えます。



院内にて喫茶

当院では、退院後、地域で円滑な生活を送っていただくために、作業療法のなかで、患者さんと院外の店舗に出掛け、買い物や飲食をするリハビリテーションも行っています。

単独で街中に買い物に行かれる患者さんもいらっしゃるのですが、高齢の入院患者さんなど外出が難しい方も多く、全員が院外で買い物や飲食ができるわけではありません。



テーブルに置かれた生花



そこで、6月22日、外出が困難な患者さんに少しでもお店の雰囲気を感じていただくよう、作業療法士が店員となり、院内に喫茶を開店しました。

患者さんは、ババロアプリンやアイスクリーム、各種ジュースなど、思いの注文をされ、ホイップクリームやチョコシロップを自由にかけて食されるなど、喫茶店の雰囲気を感じていました。



院内不在者投票 ご活用を!!

今夏、長野県知事選挙が行われましたが、当院では7月に入院患者さんを対象に、院内にて県知事選挙の不在者投票が行われ、大勢の方が投票されました。

入院医療機関や入所施設は、機関内で不在者投票を行うことが認められており、不在者投票の研究を受けた職員が、適正に選挙事務を行い、投票用紙は厳正に各市町村の選挙管理委員会へ提出されます。

当院は、入院患者さんの投票行為は市民としての権利と考え、大切にしていきたいと考えております。

今後も種々の選挙の度に適宜投票のお声掛けをしておりますので、不在者投票をご活用いただきたいと思えます。



精神科外来よりお知らせ

現在、精神科外来では、初めて受診される方の診察が可能な日と可能ではない日があります。お手数ですが、受診をされる前に、あらかじめ、お電話でお問い合わせください。ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いします。

AED講習 受講者全員が実践

9月19日と

26日、日本光

電さんを講師

にお迎えし、

職員を対象に

AED自動

体外除細動器)の研修会を行いました。

研修会に参加した職員は全員が実践形式で
訓練を行い、AEDの使用方法と心肺蘇生の
方法を学びました。



AEDは、機器自体のアナウンスに従って操
作しますので、ど
なたでも扱える
ようになってい
ます。
当院は、AED
を内科外来に設
置しております
ので、緊急の際
にご利用いただき
たいと思います。

外来 医師担当表

平成 30年 9月 1日現在

曜日	月	火	水	木	金	土
精神科	なかざわ ちとお 中澤 知遠 医師	にしざと よしあき 西里 吉昭 医師	ごみぶち みつなり 五味 洸 満徳 医師	おかざき たかし 岡崎 隆司 医師 ※ 9:30~	なかざわ ちとお 中澤 知遠 医師	ごみぶち みつなり 五味 洸 満徳 医師
内科	いわさ たけひこ 岩浅 武彦 医師	休 診	休 診	まちだ りょうすけ 町田 良亮 医師	休 診	休 診

◎ 受付時間 午前 8:00~午前 12:00

◎ 診療時間 午前 9:00~終了まで

※ 午後は全科**休診**となります。

※ 日曜・祝日は全科**休診**となります。

※ご不明な点等は、受付へご確認下さい。

お問い合わせ先 電話 0263-72-8400



～ 編集後記 ～

豊科病院広報誌『雪がた』第55号をお届けしました。お読みになっていかがでしたか？

先日夕方4時過ぎ、病棟のホールのテレビに「水戸黄門」が流れていました。懐かしい助さん格さん、弥七にうっかり八兵衛…と思っていたら、黄門様役は初代の東野英治郎！

後でインターネットで調べてみたところ、37年前の1981年に放送されたシリーズの再放送でした。昭和全盛期の番組が放送されていることに驚くとともに、古くても良いものは良い、と再認識いたしました。

※表題「雪がた」について

春から夏にかけて北アルプスでは様々な雪形が見られ、当院からは常念岳の常念坊や、蝶ヶ岳の蝶などの雪形を正面に望むことが出来ます。雪形が季節の変化に合わせて融けるように、患者様の病も融ける・・・表題にはそんな願いが込められています。

(表題の写真は当院屋上から撮影しました。)